取扱説明書

FUJIIRYōKI

家庭用バイオ式生ごみ処理機
GA-530形（屋内設置タイプ）

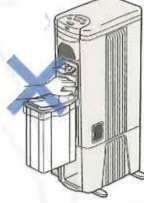
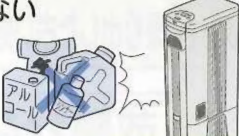
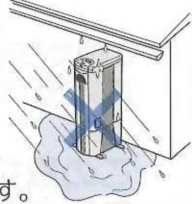
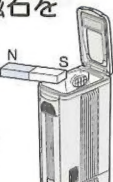
DUSTHROW

このたびは家庭用バイオ式生ごみ処理機をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みになり、正しくご使用ください。
特に「安全上のご注意」は必ずお読みください。

お読みになったあとは、保証書とともに大切に保管してください。

安全上のご注意

ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

■ここに示した注記事項は

表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示の例

	「警告や注意を促す」内容のものです。
	してはいけない「禁止」内容のものです。
	必ず実行していただく「指示」内容のものです。

⚠ 警　告

修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造を行わない

- 発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

本体各部に直接水をかけない
また、処理槽の内部は絶対に水洗いしない

- 漏電・感電・故障の原因になります。

ふたを開けても、かくはん棒が回転を続ける場合は、直ちに使用を中止する

- 修理を依頼してください。
けがの原因になります。

コンポスト(古い処理物)の自動取出し中は絶対に取出口の中に手などを入れない

- けがの原因になります。

処理槽には、灯油、ガソリン、ベンジン、シンナー、アルコールなどやそれらが付着したごみを絶対に入れたり近づけたりしない

- 爆発や火災の恐れがあります。

マイナスイオン吹き出し口に指や針金などを差し込まない

マイナスイオン吹き出し口

- 高電圧がかかっており、感電・けが・故障の原因になります。

幼児に処理槽の中をのぞかせない
また、生ごみ処理機の近くに台を置かない

- 落ちてけがをすることがあります。

屋外には、絶対に据え付けない

- 感電や漏電による火災の恐れがあります。

ふたを開けたとき、本体の上部に磁石を近づけない

N　S

- 内部のふたスイッチが働き、かくはん棒が回転を始め、けがをする恐れがあります。

火気の近くに設置しない
また、火のついたたばこなどを投入しない

- 本体の変形によるショート・発火の原因になります。

⚠ 警　告

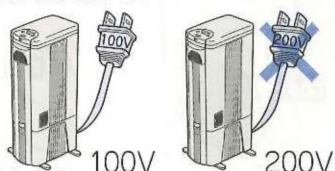
処理槽の中に手を入れるときは、必ず電源プラグを抜く
また、ぬれた手で抜き差ししない

- 感電やけがをすることがあります。

電源プラグは、刃および刃の取り付け面にほこりが付着している場合はよくふく

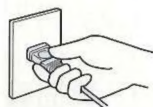
- 火災の原因になります。

⚠ 注　意

交流100V以外では使用しない

- 火災・感電の原因になります。

運転中や運転停止直後、ふたの裏や処理槽内壁が高温になっているので触らない

- やけどをする恐れがあります。

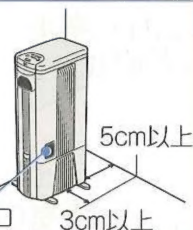
電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず先端の電源プラグを持って引き抜く

- 感電やショートして発火することがあります。

運転中はふたを開けない

- 処理中の熱い蒸気が出るので、やけどをする恐れがあります。

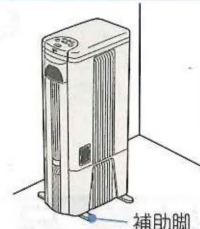
電源コードを傷つけたり、破損したり、無理に曲げたり、ひっぱったり、ねじったり、たばねたりしない
また、重いものを載せたり、挟み込んだり、加工したりしない

- 電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。

壁側に近づけて据え付けない
必ず、右側は3cm以上後側は5cm以上離して据え付ける
右側吸気口をふさがない
また、背面に器物を置かない

- 故障の原因になります。

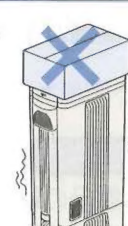
長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く

- 絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。

じゅうたんやカーペットなどの不安定な場所には据え付けない
必ず補助脚を出して、安定した床面に据え付ける
壁がない場合は、付属のストッパーも取り付ける

- ストッパーを取り付けないと、転倒の恐れがあります。

電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しない

- 感電・ショート・発火の原因になります。

生ごみ処理機の上にのぼったり、重いものを載せたりしない

- 変形・破損・転倒によりけがをする恐れがあります。

各部のなまえ

ふたパッキン

ふた

「高温注意」ラベル

つゆ受けカバー

処理槽

上限ライン

マイナスイオン発生口

回転軸

かくはん棒

化粧パネル(着脱式)

右側面吸気口

※工場出荷時に、ふたの裏に薄く乳白色のコーティング剤が塗ってあります。

「正しい使いかた、日常の点検」ラベル

吸込口

排気フィルター

固定刃

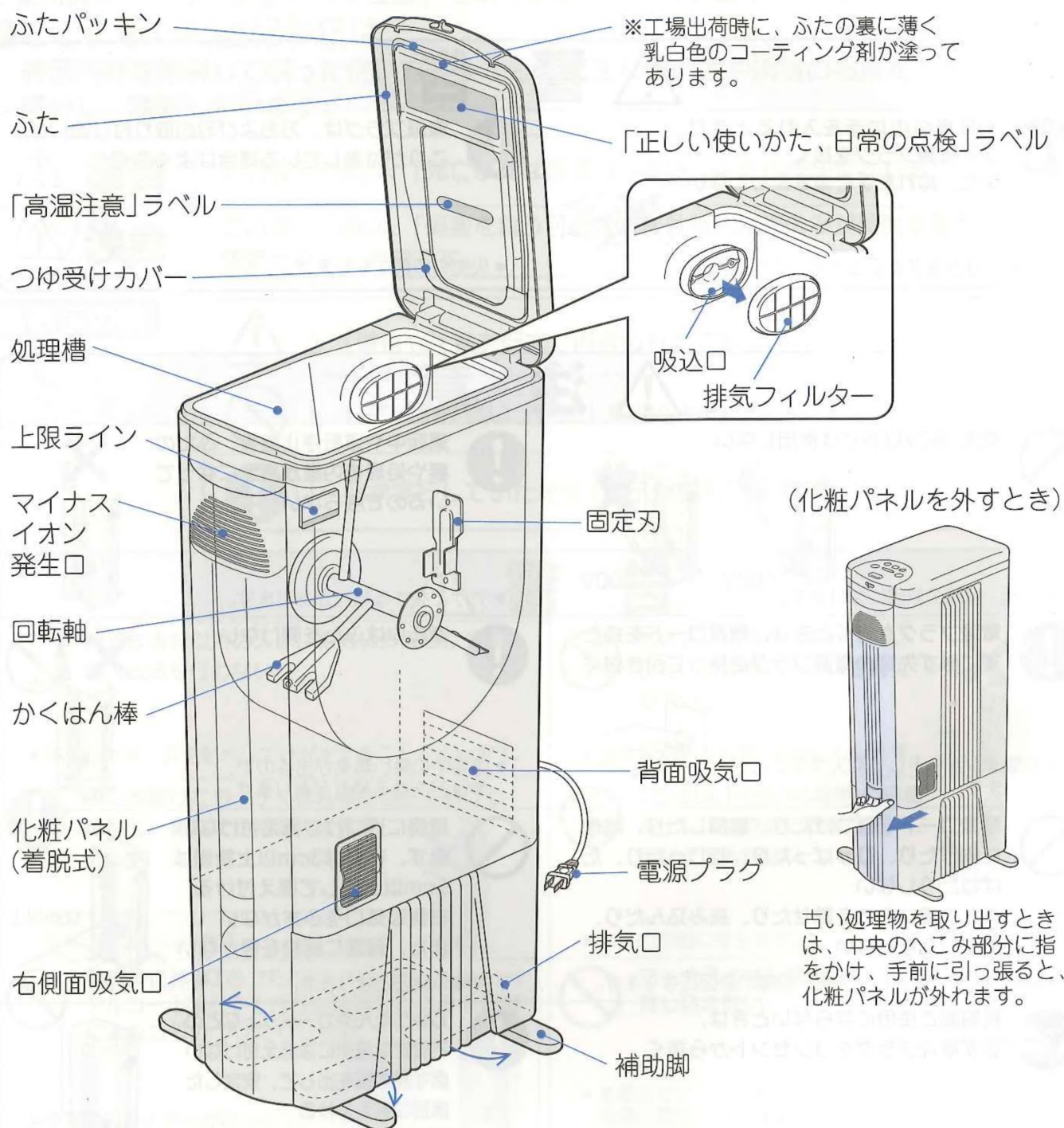
背面吸気口

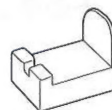
電源プラグ

排気口

補助脚

(化粧パネルを外すとき)

古い処理物を取り出すときは、中央のへこみ部分に指をかけ、手前に引っ張ると、化粧パネルが外れます。

付属品(回収ケース内に収納してありますので、中身を取り出してから、準備してください。)

- 高温バイオ剤 1袋(約1.5L)

ご注意

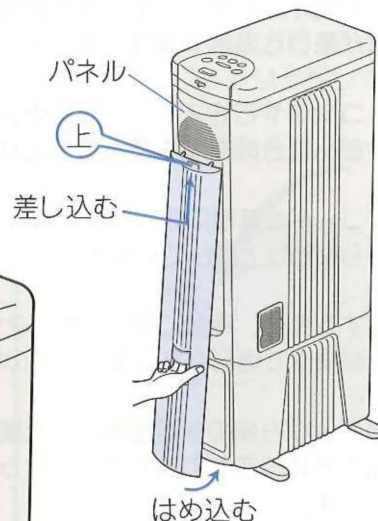
- 製品の輸送中に、袋がやぶれて中身がもれる場合がありますが支障ありません。そのままP7の「ご使用前の準備」にかかってください。

- スコップ 1個

- ブラシ 1個

- 排気フィルター 1個

- ストッパー 1個

壁がない場合は、転倒防止のため本体底部の後ろに取り付けてください。

運転内容

- ふたを開けた状態で電源プラグをコンセントに差し込むと、ピッと鳴り「標準」ランプが点灯して通電状態となります。
- 通電状態でふたを閉めると、正転約2分、休止約30秒、逆転30秒、休止30秒のかくはんサイクルが自動的に繰り返します。
- ふたを閉めた状態で電源プラグをコンセントに差し込むと、ピッと鳴り、「標準」ランプが点灯し、かくはん運転を開始します。
- かくはん運転中にふたを開けると、かくはん運転が休止します。
- 外気温度に応じて、保温ヒータが働きバイオ処理を助けます。
- 処理運転時間は、「標準」コースで約5.5時間、「多め」コースで約9.5時間、取出準備運転で約13時間になります。10

据え付けのしかた

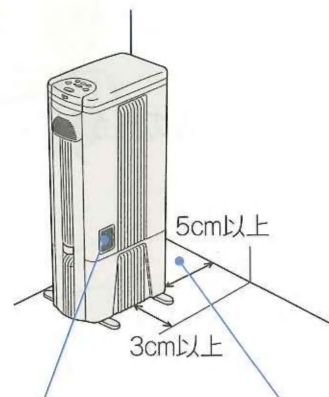
据え付け場所を選ぶ

■換気扇などがある、換気のよいところに据え付けてください。
ふたを開けたときや、生ごみを処理中に多少のニオイや水蒸気が出ますので、換気が悪いと温度や湿度が高くなり、ニオイがこもることがあります。

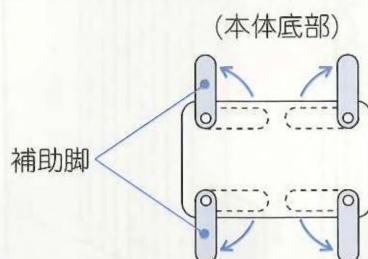
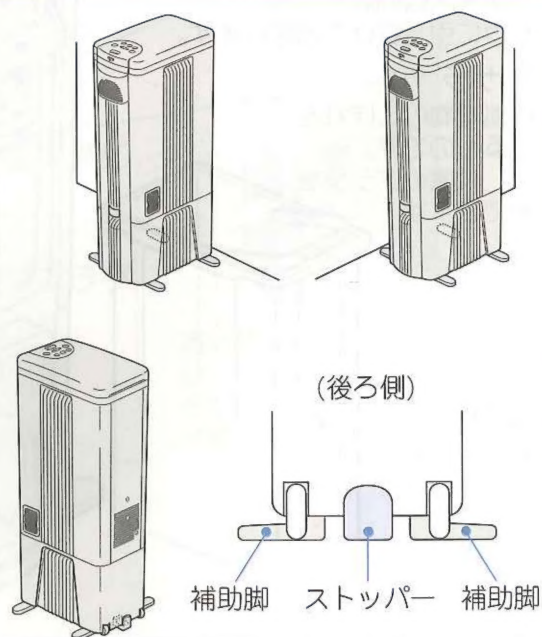
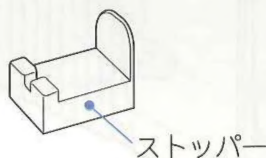
■ガスコンロや石油ストーブなどの近くには据え付けないでください。
外装部品に合成樹脂を使用しておりますので、熱変形する恐れがあります。

■電源コードが無理に曲がらないように、また、ふたが全開できるように、背面は壁から5cm以上離してください。

■設置する場合、背面に器物や傷つきやすい壁がある場合などは、ふたの開く勢いで破損する場合があります。その場合は10cm以上離してください。

■前面および右側の側面を3cm以上離してください。
排気や冷却の空気の流れが悪くなって、内部温度が高くなり、故障の原因になります。

●右側面吸気口をふさがないでください。
●背面側に器物を置かないでください。

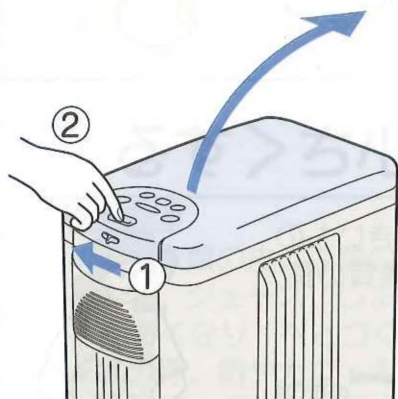
据え付ける

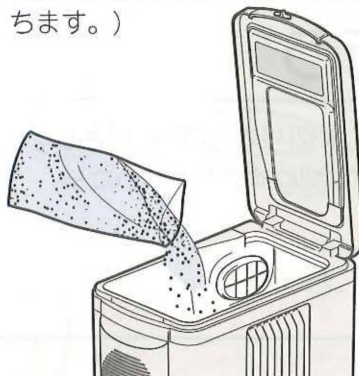
■転倒防止のため、必ず補助脚を出して、本体を安定させてください。

■壁のないところに据え付ける場合は、上記の補助脚を出しても不安定になる場合がありますので必ず付属のストッパーを後ろに固定してください。

■据え付け場所を移動する場合は、ストッパーを外し、前側を浮かせて動かすと、キャスターが回転して移動しやすくなります。

ご使用前の準備

1 ふたを開ける

① チャイルドロックつまみを「解除」の方向に動かし、ロックを解除します。
② オープンボタンを押してふたを開けてください。

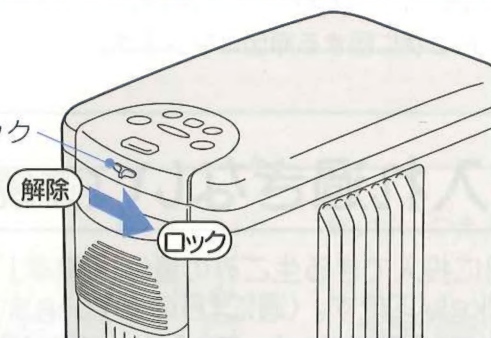
● 開くふたが顔や壁に当たらないように注意してください。

2 高温バイオ剤を入れ、プラグを差し込む

① ポリ袋を開封して、全部入れます。(勢いよく入れると、ホコリがたちます。)

② 電源コードの先のプラグを差し込むと、ピッと鳴り、「標準」ランプが点灯します。

3 ふたを閉める

ふたを閉めて、「カチッ」と音がするまで、しっかりと押してください。

● ふたを閉めると処理運転が始まります。
● 運転表示パネルの取消ボタンを押して運転を止めてください。

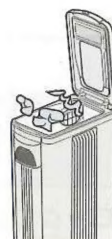
ご注意　子供、幼児が触る可能性がある場合は、「チャイルドロックつまみ」を右方向(ロック)に動かしてふたをロックしてください。
左方向(解除)に動かすとロックが解除されます。

バイオ処理維持のため、電源プラグはコンセントに差し込んだままにしておいてください。
数日の旅行などでご使用にならない場合も、電源を入れたままで結構です。
留守対応機能が働き、自動的に最小限の維持運転に切り替わります。

■高温バイオ剤について

● コーヒーがらをベースに活性炭などを加えて加工したもので、微生物の育成に必要な「水分」「空気」「温度」などを適切に保つ微生物の住家です。
● 出荷時に、生ごみを分解するバイオ菌をあらかじめ混ぜてありますので、使用開始から分解処理が行われます。
● 開封時に、黒い粒と微粉末がよく混ざり合わず片寄っている場合がありますが、異常ではありません。そのままお使いください。

使用上のご注意

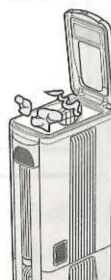
1 分別して入れる

■投入できるものと、投入できないものがありますので、
あらかじめ必ず分別してください。☞9

2 よく水切りを行う

■生ごみを投入するときは、十分に水切りをしてください。
- 処理槽内の水分が多くなると、処理し切れずにべとついたり、ニオイが強くなる原因になります。

3 硬くて大きいものや長いものは小さくする

■グレープフルーツの皮、ごぼう、とうもろこしのしんなど硬くて大きいものや、とうもろこしの皮、たけのこの皮、長ねぎの白根など丈夫な繊維質の長いものは5cm以下に小さくしてください。
- かくはん棒の回転を妨げてかくはん異常の原因になります。

■ごはん類、めん類などでんぷん質のものは、よくほぐして入れてください。
- だんご状に固まる原因になります。

4 入れ過ぎない〔連続処理の場合最大約1.2kg/日〕

■1日に投入できる生ごみの量は、「標準」コースで0.7kg以下、「多め」コースで1.2kg以下です。(週に1日のみ1.5kgまで投入できます(「多め」運転のとき))
- 生ごみ用三角コーナーで、0.7kgは軽く1杯、1.2kgは1杯強を目安にしてください。
- 毎日連続して入れ過ぎると処理し切れず、水分が多くなってべとついたり、ニオイが強くなる原因になります。
- 1日に約1.2kg以内であれば、2～3回に分けて投入してもかまいません。

5 古い処理物の取り出しはお早めに

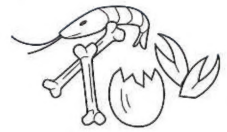
■処理槽内に古い処理物がたまってくると、土状になり、微生物が住みにくくなってべとついたり、処理槽の壁面が汚れ、固まりがへばりつくようになります。また、かくはん停止が起こりやすくなります。
- 赤い上限ラインが目安ですが、こまめに、早めに取り出してください。
- 少量の取り出しには、付属のスコップをご利用ください。

投入できるもの・投入できないもの

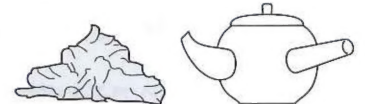
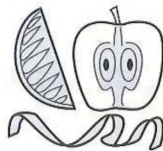
投入できるもの

- 野菜くず

- 魚の皮や骨

- 鶏の骨・卵やカニえびの殻

- ごはん・めん類

- 肉類

- 茶がら

- 果物やとうもろこしの皮やしん

- その他、一般的に人間が食べられるもの

ご注意

- ミカン類の皮、豆類のサヤなどは分解しにくいので処理時間が長くなります。
- 牛乳、ジュース、しょうゆ、ドレッシング、味噌汁などは直接投入しないでください。水分が多くなり、べとつく原因になります。
- 鶏の骨、卵やカニ・えびの殻など硬い殻などは分解しないため連続して大量に入れますと、処理槽を傷つける場合がありますのでご注意ください。
- 大きくて硬い果物の種(梅干し、桃など)は、投入しないでください。かくはんが妨げられ、大きな音がしたりします。

投入できないもの

- 故障の原因になるもの

硬い貝殻や多量のあさり・しじみなど

牛・豚などの骨

調理時に入りやすいもの

食事後の残り物に入りやすいもの

- 爆発・引火の恐れがあるもの

酒類(果実酒・薬用酒など)

アルコールおよびアルコール分を含む食品(酒かすなど)石油類

たばこ

- 微生物の生育を妨げるもの

洗剤、石けん、化粧品、シャンプー、化学製品、医薬品などの薬品類

ガラス、陶磁器、金属類、プラスチックなどの合成化学物質

運転表示パネルの見かたと

■予約運転時間の設定

毎日の処理運転開始時間を予約するのに使用します。

- 今から何時間後かを設定します。

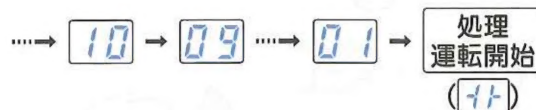
(予約)ボタンを1回押すごとに「01」から始まり「02」……「20」時間後まで予約することができます。

<例>午前8:00に、午後10:00に処理運転の予約をする場合

①今から処理運転を開始するまでの時間を計算します。午後10:00は14時間後です。

② (予約) ボタンで 14 を表示させます。

時間後 14

③これで予約設定は終了です。
以後、処理運転を開始するまでの
残時間を、1時間ごとに表示します。

④予約した時間になると、処理運転を開始します。(→このときの表示は -|-|)

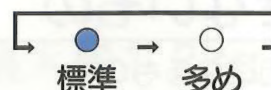
- 予約運転時間を変更する場合

(取消)ボタンで 00 に戻し、再設定します。 ☞12

- 予約の設定は、表示が 00 になっていないと行うことができません。

もし 00 になっていないときは、(取消)ボタンを押して 00 にしてください。

■運転コースの切り換え

- 運転コースは、(処理)ボタンを1回押すごとに切り換わります。

- 生ごみの種類や水切りの状態によって、処理槽内の水分が多くなったり、パサパサに乾燥したりしますので、運転コースを使い分けてください。

「標準」…生ごみ0.1〜0.7kg/日(おおよそ生ごみ用三角コーナー軽く1杯)
処理時間は、実処理運転 約4.5時間と冷却運転 約1時間です。

「多め」…生ごみ0.8〜1.2kg/日(おおよそ生ごみ用三角コーナー1杯半)
処理時間は、実処理運転 約8.5時間と冷却運転 約1時間です。

※水分の多い生ごみは、処理時間がかかりますので「多め」で使用するようにしてください。

- 生ごみの処理をスムーズに行うために、6回処理ごとに一度時間が長くなり、「標準」または「多め」の処理時間に最大約4時間延長運転されます。
- 生ごみの量が極端に少なく、古い処理物が極端に乾燥し過ぎる場合は、自動的にいつもの運転時間よりも短い時間で処理時間が終了する場合があります。

使いかた

■表示窓の表示内容

- 00 ：運転停止状態
- 01 ～ 20 ：予約運転時間(この時間後に運転が始まる)
- -|- ：処理運転中(実処理運転と冷却運転)
- [ ] ：まぶし運転中(かくはんのみ行う)
- JL ：古い処理物の自動取出し中(取出口シャッターが開いている)
- E1 ：かくはん停止センサー作動(運転が停止していることを示す)
  (☞18を参照して運転できるようにする)
- E2 ：取出口シャッターが開いているので運転不能 ☞15、18
- F0 ～ F1 ：故障表示(☞20修理を依頼)
- LJ ：ふたと取出口シャッターが開いている
- - - ：留守対応機能 ☞18

■取消

- 運転中に押すと、「00」表示となり、運転が停止します。
- 予約中に押すと、「00」表示となり、予約運転時間が取り消されます。

■マイナスイオンの発生

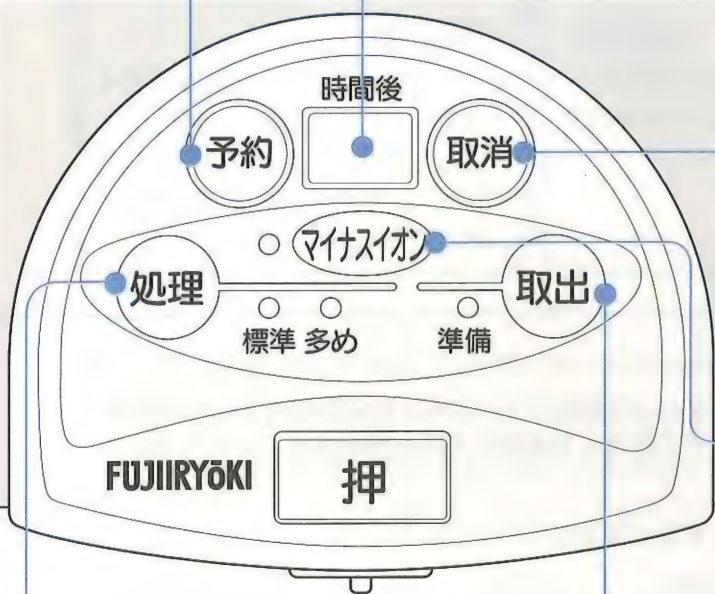
- (マイナスイオン)ボタンを押すと表示ランプが点灯し、マイナスイオンが発生します。もう一度押すと表示ランプが消灯し、マイナスイオンが停止します。(約6時間マイナスイオンが発生します。)

※マイナスイオンは、滝のそばや森林などさわやかさを感じる場所の空気に多く含まれています。

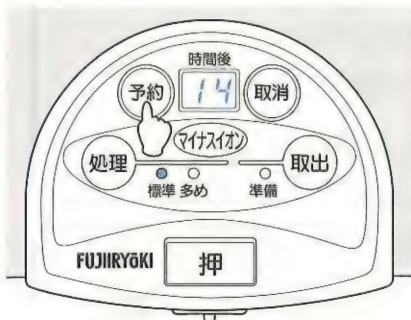
■取出準備運転

お願い

- ふたを開けて、古い処理物の状態を確認してください。べとついているときは、この取出準備運転を行ってください。

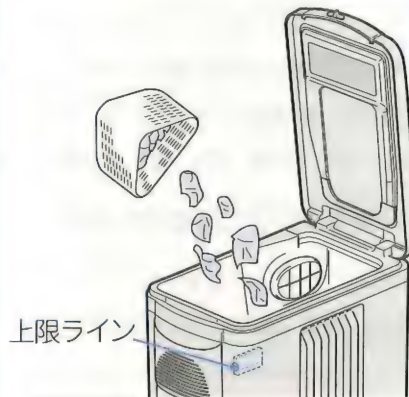
- (取出)ボタンを押すと「準備」ランプが点灯し、約13時間の取出準備運転が始まります。
  もう一度押すと「準備」ランプが消灯し、取出準備運転が停止します。
- 取出準備運転を行っている間は、処理運転表示ランプ(「標準」または「多め」)は消灯します。
- 処理運転中(「標準」または「多め」)に取出準備運転を行うと、終了後、残りの処理運転を行います。
- 取出準備運転が終了すると、「準備」ランプは点滅して終了したことをお知らせします。
- 一度の取出準備運転で古い処理物がサラサラにならないときは、もう一度取出準備運転を行います。
- 取出準備運転終了後は、前に設定した運転コース(「標準」または「多め」)に戻り、予約の設定をしていた場合は、もとの状態に戻ります。

使いかた (1)予約運転をする場合

1 運転開始時間を予約する

- 今から何時間後に運転を始めるか決めて、予約ボタンを押して表示窓上に時間を設定します。
- 生ごみの量に合わせて、「標準」または「多め」を選択してください。

■予約を解除しない限り、毎日同じ時間に処理運転を行うことができます。

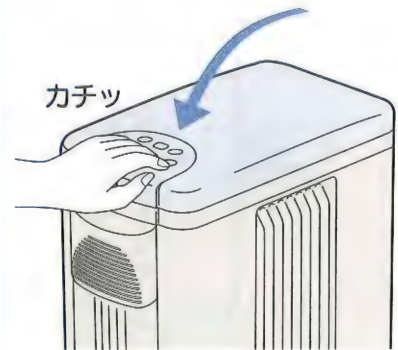
2 ふたを開け、生ごみを投入する

オープンボタンを押してふたを開け、生ごみを投入します。

ご注意

- 古い処理物が上限ライン付近まで増えてきた場合は、古い処理物の取出し運転を行ってください。

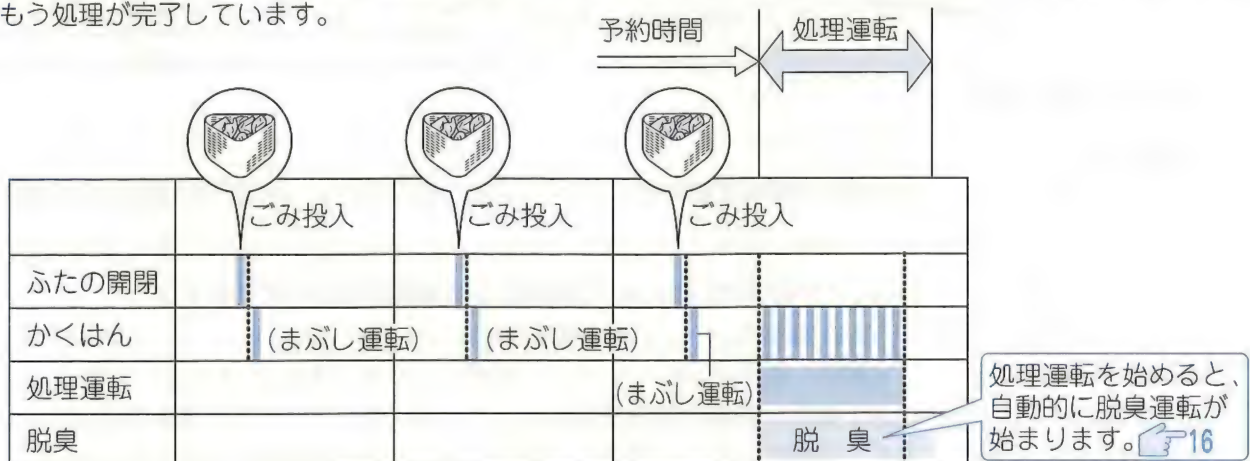
3 ふたを閉める

ふたを閉めて、「カチッ」と音がするまで、しっかりと押してください。まぶし運転が開始されます。

ご注意

- ふたが確実に閉まっていないと運転を行いません。
- 表示窓に「E1」、「E2」、「F0」、「F1」の表示が出る場合は運転できません。☞11、18

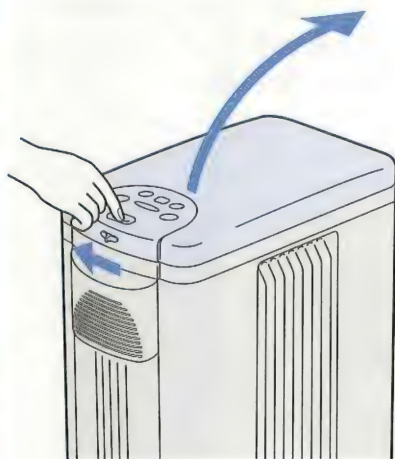
■「予約運転」の使いかた

「今から何時間後に処理運転を始めるか」が選べる機能です。ご自分のライフスタイルに合わせて、一日の内でいつ処理運転するのが都合がよいのかを決め予約すれば、その時間に自動的に運転を開始することができます。

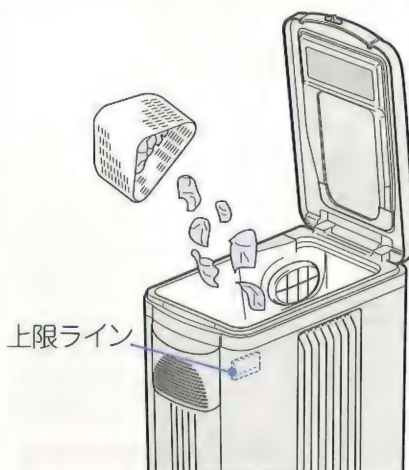
●寝ている間に生ごみを処理させると便利です。
予約タイマーで、毎日同じ時間に処理運転ができます。家族が寝静まった深夜にセットしておけば、朝にはもう処理が完了しています。

予約時間までの間は、いつでも生ごみを投入できます。この間は、発酵処理は行わず、生ごみと高温バイオ剤を混ぜ合わせる「まぶし運転」(約6分間)なので、ニオイや音が気になりません。
ただし、ふたを開けたときには、ニオイはします。

使いかた (2)予約なしですぐ使う場合

(表示窓は「00」になっていることを確認してください)

1 ふたを開ける

- 表示窓が「00」になっていないときは、(取消)ボタンを押して「00」にしてから、ふたを開けてください。

2 生ごみを投入する

ご注意

- 古い処理物が上限ライン付近まで増えてきた場合は、古い処理物の取出し運転を行ってください。

3 ふたを閉めて運転する

ふたを閉めて、「カチッ」と音がするまで、しっかりと押してください。処理運転が開始されます。

ご注意

- ふたが確実に閉まっていないと運転を行いません。
- 表示窓に「E1」、「E2」、「F0」、「F1」の表示が出る場合は運転できません。☞11、18

■生ごみの処理が終了したあと、ときどき中の処理状態をチェックしてください。

- 古い処理物が水っぽくべとべとした状態のときは、生ごみを投入せずに、もう一度処理運転を行ってください。
- 予約なしで(表示窓が「00」の状態)ふたを開閉すると、すぐに処理運転することができます。
- いつもべたつきやすい場合は、「多め」に合わせて処理運転を行うようにしてください。

■生ごみの処理をスムーズに行うために、6回処理ごとに一度時間が長くなります。

■処理運転中にふたを開けると、蒸気やニオイが広がりますので、途中でふたを絶対に開けないでください。

■使用とともに、処理槽内が汚れてきます。気になる場合は掃除をしてください。☞16、17

■処理運転が終了したあと、ふたの裏や処理槽上部が結露していますが、問題はありません。
気になる場合は、ふきんなどでふいてください。このとき、排気フィルターが汚れている場合は、ブラシで掃除するか、または、付属の排気フィルターと取り替えてください。☞16、17

■毎日生ごみを処理していくと、古い処理物が増えてきます。
古い処理物が上限ライン付近まで増えてきた場合は、自動取出しを行ってください。☞14、15

古い処理物の自動取出し

(上限ラインに達したら 自動取出しを行ってください)

1 取出す前に取出準備運転を行う (処理物がべとついている場合)

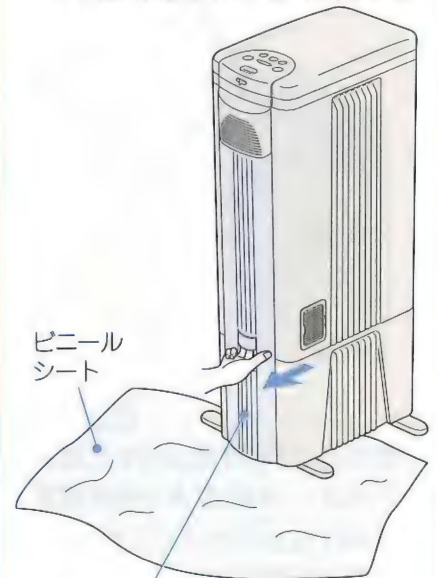
お願い

- ふたを開けて、古い処理物の状態を確認してください。べとついているときは、この取出準備運転を行ってください。

① (取出)ボタンを押して「準備」ランプを点灯させます。どの運転状態でも、(取出)ボタンを押すことができます。これで約13時間の取出準備運転が始まります。(取り出したい前日に押します。)

②取出準備運転が終了すると、「準備」ランプは点滅します。

2 化粧パネルを取り外す

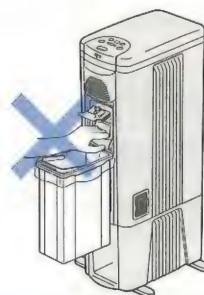
- 床面が汚れる場合がありますので、ビニールシートや新聞紙などを敷いてから古い処理物の取り出し作業を行ってください。

化粧パネルは中央のへこみ部分に指をかけ、手前に引っ張ると外れます。

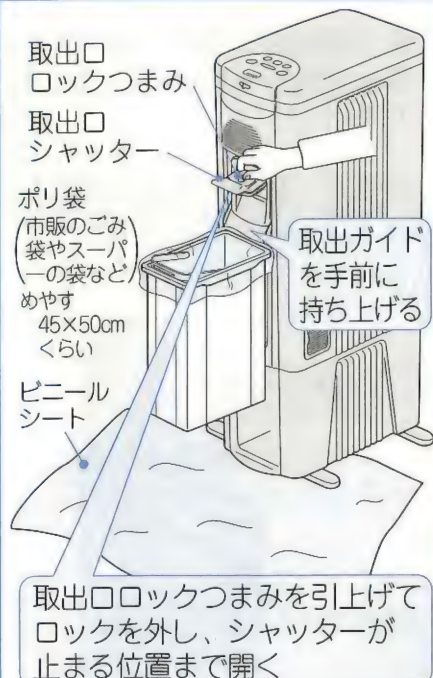
■処理槽内の古い処理物の状態がサラサラのときは、取出準備運転の必要はありません。このまま自動取出しを行ってください。(上記の1をとばして2から行ってください。)

■1回の取出準備運転後、処理槽内の古い処理物がまだサラサラしていないときは、もう一度取出準備運転を行ってください。

⚠ 警 告

コンポストの自動取出し中は絶対に取出口の中に手などを入れないでください。

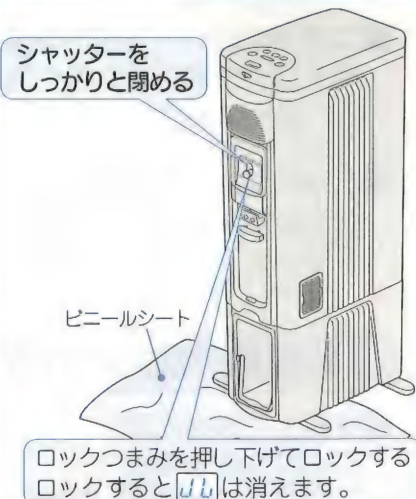
- けがの原因になります。

3 回収ケースをフックに引っ掛けて固定し、取出口のシャッターを開く

取出口ロックつまみを引上げてロックを外し、シャッターが止まる位置まで開く

- シャッターのロックが外れると、表示は [JL] を示します。☞11

4 「取出」ボタンを押す

- 取出し中の表示は [JL] です。

5 シャッターを閉じ、化粧パネルをセットする

ロックつまみを押し下げてロックする
ロックすると [JL] は消えます。

ご注意

- **シャッターを正しくロックしないと運転できないばかりか、古い処理物がもれて、床を汚す原因になります。**
- 化粧パネルを装着するときは、パチッと音がするまで、押し付けてください。☞5

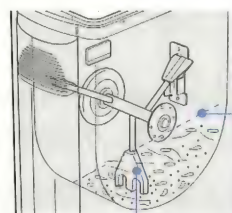
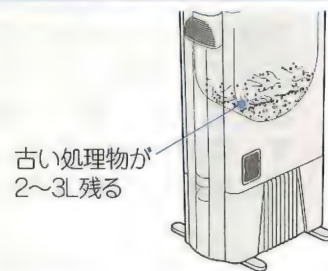
■自動取出し運転は、約5分間行われます。取出しを終了すると約10秒間ブザーが鳴って止まります。

■自動取出し後、処理槽内には約2Lの処理物が残るように設定されています。これは次の処理のための高温バイオ菌を残すためです。

■自動取出しを途中で止めたいときは
(1)ふたを開けます。(→このときの表示は [L J]) 閉じると残りの時間だけ運転します。
(2) (取出) ボタンを押します。ピッとブザーが鳴って止まります。
再び押すとピッとブザーが鳴って残りの時間だけ運転します。

■古い処理物の状態によって、押し出されるスピードが異なります。
1回の自動取出しで古い処理物が出し切れず、残り量が多い場合(かくはん棒の羽根がかくれるくらい)は、もう1度自動取出しを繰り返してください。

■自動取出し中に取出口につもった古い処理物の山をスコップで崩してください。
山につかえてスムーズに排出できません。
また、ポリ袋から溢れて、床にこぼれる原因になります。

■付属の回収ケースに古い処理物がいっぱいになっても、まだ自動取出しされる場合は (取出) ボタンを押して停止してください。

脱臭とお手入れについて

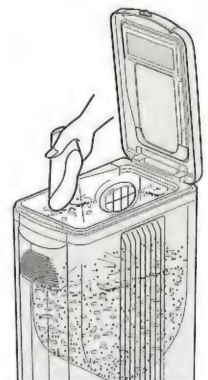
脱臭について

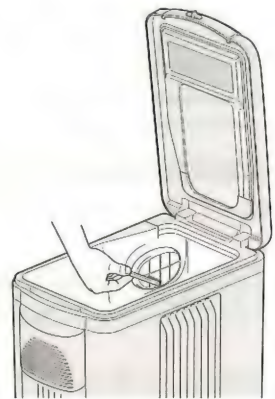
■脱臭運転は、処理槽から出る排気のニオイを取る働きをするもので、ふたを開けたときに感じる、処理槽内の処理物や生ごみのニオイを取るものではありません。

■ニオイの成分の種類や濃度によっては、脱臭運転してもニオイが完全に取れない場合があります。例えば、多量の魚介類や残飯などを投入したときの強いニオイは、取り切れない場合があります。この場合は別売りの高温バイオ剤を使用して最初からやり直してください。

■ご使用始めの処理運転中に、オイルが焼けたようなニオイが発生しますが、故障ではありません。脱臭装置の金属や断熱材が加熱されたとき、初期のみ発生するニオイです。1～2日のご使用でなくなります。気になる場合は換気してください。

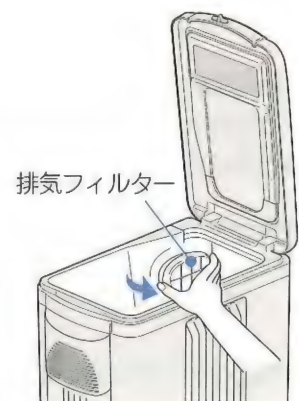
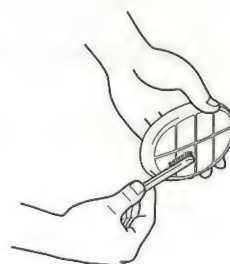
処理槽内面の汚れ落とし

■毎日生ごみを処理していくと、処理槽の内面に古い処理物がこびりつきます。
このようなときは、付属のスコップでかき落としてください。
時間が経つと、固まって落としにくくなりますので、こまめにかき落としてください。
へら状のものがあれば、かき落とし作業が楽になります。

排気フィルターのお手入れ

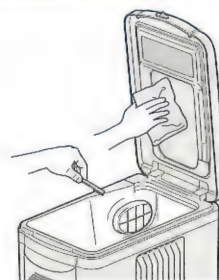
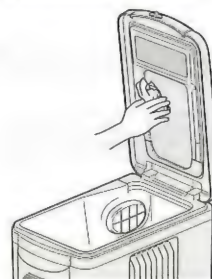
**■排気フィルターが、粉状のほこりや古い処理物のほこりで目詰まりしますと、処理運転中の蒸気やガス成分の排気性能が低下し、べたつきやニオイが強くなる原因になります。
こまめに掃除してください。
（目安として、週に一度は付属の排気フィルターに交換をお勧めします。交換した排気フィルターは、次回の交換に備えて、掃除して大切に保管しておいてください。）**

(1)軽いほこりの付着は、排気フィルターを外さずに付属のブラシで掃除します。

(2)古い処理物が排気フィルターにこびりついたり、ほこりがべったりと付着したときは

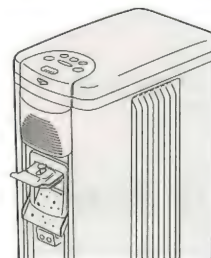
①排気フィルターを矢印のように手前にスライドさせて取り外して、付属の排気フィルターを取り付けてください。

②排気フィルターを掃除します。
- 取り外した排気フィルターは、付属のブラシなどで落とすか、汚れのひどいときは水洗いして、保管しておいてください。

- 排気フィルターは必ず取り付けてください。

処理槽上面の汚れ、水滴のお手入れ

■毎日生ごみを処理していくと、処理槽上面がこぼれた生ごみなどで汚れてきます。
処理槽内の蒸気やニオイの漏れを防ぐパッキングの働きを低下させる原因になりますので、付属のブラシやティッシュペーパー、やわらかい布などで掃除してください。

■冬の寒いときは、ふたの裏に結露による水滴が付着し、こぼれ落ちて処理槽の上面やふたの下側にたまります。気になるかたは、ティッシュペーパー、やわらかい布などでふき取ってください。

取出口シャッター、コンポスト取出口のお手入れ

■古い処理物を取り出すときに、取出口付近が汚れてきます。付属のブラシやティッシュペーパー、やわらかい布などで掃除してください。

- シャッターを正しくロックしないと、運転できないばかりか、古い処理物がもれて床を汚す原因になります。

処理槽内、処理物の量の調節

■処理物が増えると、内面の汚れや処理物のべたつき、またはかくはん停止の原因になります。
古い処理物が、目安となる上限ライン付近まで増えてきたときは、取り出してください。☞14、15

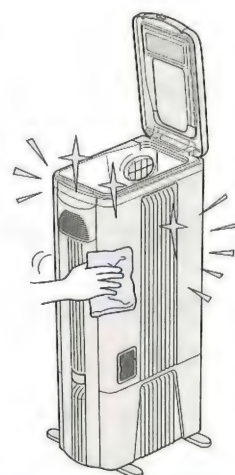
- 古い処理物がべとついている場合は、自動取出しする前に、取出準備運転を行うと、自動取出しがしやすく、また、取り出した処理物が保管しやすくなります。
- 少量の場合は、付属のスコップで取り出してください。

本体のお手入れ

■本体の汚れは、水または中性洗剤を含ませた柔らかい布でふき取ってください。

ご注意

- 乾いた布やブラシ、たわしなどでこすったり、クレンザー、ワックスなどで磨いたりしないでください。光沢をなくし、変色する原因になります。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

警告

処理槽の中に手を入れるときは、必ず電源プラグを抜く。また、ぬれた手で抜き差ししない。
- 感電やけがをすることがあります。

本体各部に直接水をかけない。また、処理槽の内部は絶対に水洗いしない。
- 感電、漏電や故障による火災の恐れがあります。

その他　お知らせ

留守対応機能について

（→このときの表示は [- -] ☞11）

- 3日以上ふたを開閉しない場合は、自動的に留守対応機能が働き、留守運転を行います。
  24時間ごとに2時間だけ処理運転を行います。
- ふたを開閉すると、通常通りの運転になり、生ごみを投入することができます。
- 「予約」ありで使用していた場合は、ふたを開閉すると以前設定していた時間で処理運転を行うことができます。

運転表示窓にこの表示が出て点滅したときは

運転表示窓の表示内容	処置のしかた		
[E 1] が点滅	かくはん停止センサー作動運転が停止していることを示します。	←	処理槽の奥側にある固定刃付近に硬い物が当たって、かくはん棒の回転が妨げられて起こります。この原因を取り除く必要があります。
[E 2] が点滅	取出口シャッターが10分以上開いているので運転不能です	←	取出口シャッターを閉じて、ロックつまみを押し下げて確実にロックしてください。☞15､20
[F 0] が点滅	保温ヒータ異常です	←	使用を中止して、修理を依頼してください。☞20
[F 1] が点滅	脱臭運転異常です	←	使用を中止して、修理を依頼してください。☞20

[E 1] が点滅したときの処置のしかた

■作業はけが防止のため手袋をご使用ください。

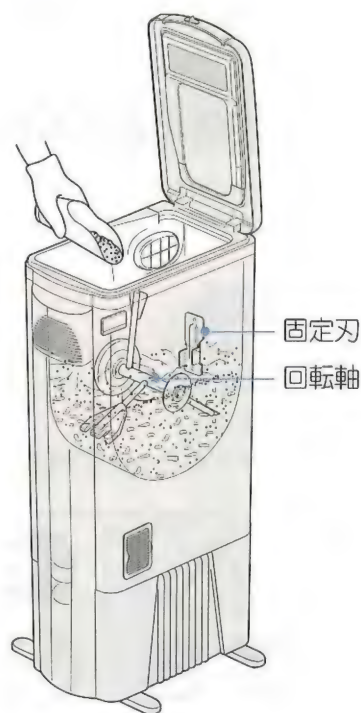
① 付属の回収ケースとスコップを用意します。

② 電源プラグを抜いてからふたを開けて、スコップで古い処理物を回転軸より低くなるまで取り出してください。
そして、固定刃付近に硬い物が挟まっている場合は、取り除いてください。

③ ふたを閉めて、電源プラグを差し込みます。

④ [E 1] が消えて、処理運転 [-|-] (予約時間までは、まぶし運転 [C]) が始まります。

⑤ しばらくして、再び [E 1] を表示した場合は、まだ回転を妨げる物が完全に取り除かれていないので、もう一度作業を繰り返して、古い処理物を取り出してください。

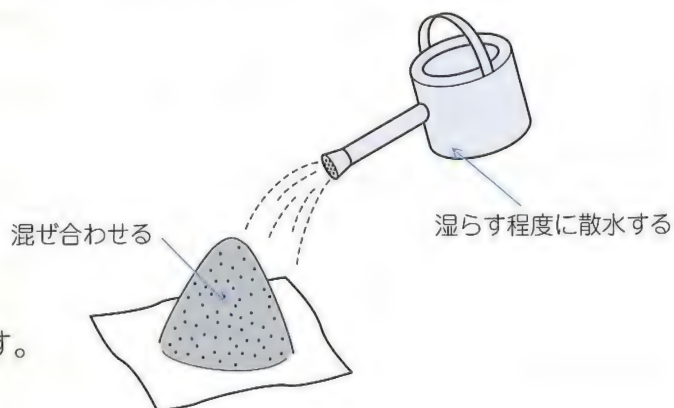
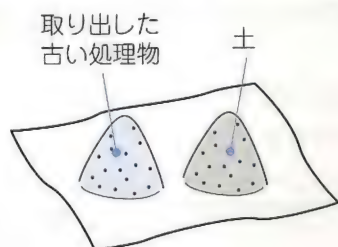
⑥ 取り出した古い処理物は、有機肥料として利用するか、可燃ごみとして出してください。

取り出した古い処理物を有機肥料として利用する方法

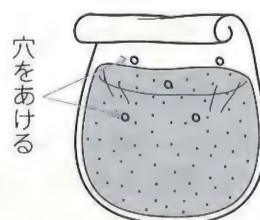
有機肥料として再利用する場合は次のようにしてください。

1 土と混ぜて利用する場合

(1)取り出した古い処理物と土を、おおよそ1：1の割合で混ぜ合わせます。

混ぜ合わせる

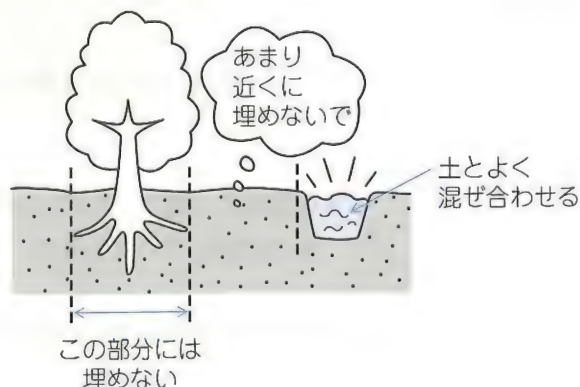
湿らす程度に散水する

(2)湿らす程度に、じょうろで水をかけます。

(3)ビニール袋に入れ、日陰で風通しのよい場所に、約1～2ヶ月保管します。

(4)利用するときは、必要な量を取り出して土に混ぜて、2倍に薄めて利用します。

■保管中に白いカビがはえてくる場合があります。白いカビは堆肥へ分解される過程ですので問題ありません。保管中に時々よく混ぜると分解が早くなります。

■未熟の古い処理物のままで植物に与えますと、土壌中で植物に有害なガスの発生、植物必須成分である窒素の欠乏、植物に有害な病原菌の増殖などで、植物の発芽や生育が阻害される場合がありますので、正しくご利用ください。

2 直接庭などに埋める場合

植物の根付近を避けて埋めてください。
根ぐされなどで植物が枯れる恐れがあります。

■有機肥料として利用しない場合

可燃ごみとして廃棄処分してください。

故障かなと思ったら

修理を依頼される前に　次の点をもう一度お調べください

症　状	調べるところ	直しかた
電源プラグをコンセントに差し込んでもかくはん運転しない	●電源プラグはきちんと差し込まれていますか。 ●ふたはきちんと閉まっていますか。 ●取出口シャッターはロックしていますか。 （表示窓の表示が JL になっていませんか。）	●電源プラグをしっかり差し込んでください。 ●ふたを「カチッ」と音がするまでしっかりと閉めてください。 ●取出口シャッターのロックをしてください。正しくロックすると JL は消えます。☞15
表示窓の表示で E 1が点滅している	●ふたを開けるとブザーが鳴りませんか。	●ブザーが鳴っているときはかくはん停止です。スコップなどで原因物を取り除いてください。☞18
表示窓の表示で E 2が点滅している	●ふたの開閉に関係なくブザーが鳴りませんでしたか。	●ブザーが鳴っているときは、取出口シャッターを閉じて、ロックつまみを押し下げて、確実にロックしてください。☞15､18
表示窓の表示で F 0が点滅している	●ふたを開けるとブザーが鳴りませんか。	●ブザーが鳴っているときは保温ヒータ異常です。使用を中止して修理を依頼してください。☞18
表示窓の表示で F 1が点滅している	●ふたを開けるとブザーが鳴りませんか。	●ブザーが鳴っているときは脱臭異常です。使用を中止して修理を依頼してください。☞18
ニオイが強い	●使い始めですか。	●使い始めに脱臭装置から焦げたようなニオイがする場合があります。1～2日のご使用でなくなります。気になる場合は、換気してください。異常ではありません。
	●処理槽内がべたついていませんか。	●水分が過剰な状態です。 生ごみを投入せずに、もう一度処理運転をしてサラサラにしてください。「多め」運転で使用することをお勧めします。 排気フィルターが汚れている場合は、掃除してください。☞16､17
	●ニオイの強い生ごみを投入しませんでしたか。	●処理槽内の古い処理物に強いニオイがついています。自動取出しで古い処理物を取り出してください。☞14､15
	●処理槽の上面やふたパッキンにごみが付着していませんか。	●ごみを取り除いてください。☞16､17
	●据え付け場所の通気が悪くありませんか。	●蒸気やニオイがこもっています。ときどき換気してください。 ●据え付け場所を移動してください。☞6

症　状	調べるところ	直しかた
ふたを開けると蒸気が出る	● 処理運転中にふたを開けませんでしたか。	● 約80℃の高温処理運転を行っているため、途中でふたを開けると熱い蒸気やニオイが広がります。運転中は絶対にふたを開けないでください。
処理槽の内壁に基材がこびりついたり、汚れる	→	● 使用とともに多少処理槽内が汚れてきます。このようなときは、付属のスコップでこまめにかき落としてください。☞16､17
	● 生ごみの投入量は守っていますか。 ● 古い処理物が増えていませんか。	● 生ごみの投入量を必ず守ってください。☞10 ● 上限ライン付近に達したら必ず自動取出しを行ってください。☞14､15
異常音が出る	● 処理槽内に大きな生ごみや硬い生ごみが入っていませんか。	● 取り除いてください。 ● かくはん棒と固定刃の間で生ごみを破砕させるため、多少「ゴトン」という音が出ることがありますが故障ではありません。 ● 硬い梅干しの種や桃の種が入ると大きな音がする場合がありますので投入しないでください。
処理槽内の古い処理物がべたついてきた	● きちんと生ごみの水を切っていますか。	● 水をよく切って投入してください。
	● 投入する生ごみ量が多くないですか。	● 生ごみを投入せずに、「多め」運転でサラサラにしてください。 生ごみの投入量を守ってください。 1.2kg/日が限界です。 ● 「標準」で運転している場合は、「多め」運転に切り換えてください。
	● 排気フィルターが目詰まりしていませんか。	● 排気フィルターを掃除してください。☞16､17
運転中の騒音が大きい	● 床がひびいていませんか。	● 床面と共振する場合があります。 据え付け場所を移動してみてください。

● 上記以外の異常がある場合は、使用を中止して修理を依頼してください。

保証とアフターサービス(必ずお読みください)

保証書(別添)

保証書は、必ず「お買い上げ日・ご購入先」などの記入をお確かめのうえ、ご購入先から受け取っていただき、内容をよくお読みのあと、大切に保存してください。

保証期間
お買い上げの日から1年です。

補修用性能部品の保有期間

当社は、この生ごみ処理機の補修用性能部品を製造打ち切り後6年間保有しています。
補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

ご不明な点や修理に関するご相談は

修理に関するご相談ならびにご不明な点は、ご購入先またはフジ医療器サービス網までお問い合わせください。

修理を依頼されるときは

20〜21ページに従って調べていただき、なお異常のあるときは、ご使用を中止し、必ず電源プラグを抜いてから、ご購入先にご連絡ください。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って、ご購入先が修理させていただきます。

保証期間が過ぎているときは

修理して使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

愛情点検

★長年ご使用の生ごみ処理機の点検を

ご使用の際、このような症状はありませんか?	症状		ご使用中止	
	●電源プラグをコンセントに入れても時々運転しないことがある。 ●コードを折り曲げると、通電したり、しなかったりする。 ●運転中、異常な音がする。 ●本体ケースが変形していたり、異常に熱い。 ●焦げた“におい”がする。 ●本体に触るとビリビリ電気を感じる。 ●その他、異常・故障があるとき。	▶	ご使用中止	このような症状のときは、故障や事故防止のため、コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店に点検・修理をご相談ください。

別売り部品

ご購入先でお求めください。

■高温バイオ剤(BG-CX20) (1袋 約1.5L)

当社指定の高温バイオ剤以外をご使用になった場合は、生ごみ処理機の性能、品質など保証できませんのでご留意ください。

- 子供の手が届かない場所・直射日光の当たらない場所に保存してください。

希望小売価格 ¥1,600(税別)

仕様

形名	GA-530
電源	AC100V 50/60Hz共用
定格消費電力	最大 490W
外形寸法	幅218 × 奥行400× 高さ825mm
質量	本体 約14kg
最大処理量	約1.2kg/1日 (週1回1.5kg)
周囲温度	0℃～35℃